

=====

GCOE NewsLetter

[No.43 2011/4/28]

gCOE授業科目の開講について
2011年度第1回大学院学生海外派遣事業について（再掲）
次回のオープンレクチャーについて
HERSETEC第4号の刊行について
『HERSETEC Vol. 4 No. 1, 2010』正誤表
第36回オープンレクチャーの要約
gCOE研究員ブリーフィング要約
gCOEスタッフ海外出張報告
研究員の紹介

=====

■ gCOE 授業科目の開講について

課程博士論文を執筆して学位を取得するにあたりグローバルCOEが開講する授業科目から「テキスト布置解釈学原論」と「テキスト布置解釈学各論」を各2単位修得することが必要です。またこれらの授業への登録はグローバルCOEプログラムが推進する二つの事業である「グローバルCOE論文賞」と「大学院学生海外派遣事業」に応募する際の条件になっています。

開講科目の詳細についてはgCOEのWebページからご覧ください。

<http://www.gcoe.lit.nagoya-u.ac.jp/education/education02/>

■ 2011年度第1回大学院学生海外派遣事業について

課程博士論文の執筆を最終的な目的として、論文執筆に必要な海外での調査をサポートするのが大学院学生海外派遣事業です。募集は年に2回しています。受付期間内に計画書を作成して応募してください。皆さんの応募をお待ちしています。

募集人員：若干名

受付期間：2011年4月25日(月)～5月6日(金)16時半必着

募集要領はグローバル COE の Web ページに掲載しています。

<http://www.gcoe.lit.nagoya-u.ac.jp/education/education03/>

■ 次回のオープンレクチャー

2011 年 5 月 25 日 (水) 18:00～

名古屋国際センタービル 15 階 グローバル COE オフィスにて

講演者：池内 敏 教授 (名古屋大学大学院文学研究科・日本史学)

題目：「竹島問題におけるサンフランシスコ条約等の解釈をめぐって」

■ HERSETEC 第 4 号の刊行について

グローバル COE プロジェクトの機関紙『HERSETEC』第 4 号が刊行されました。

希望者には文学研究科 gCOE 事務室で配布します。

『HERSETEC』第 4 号は欧文篇・和文篇の 2 篇からなり、欧文篇には平成 22 年度 gCOE 論文賞受賞の次の論文が掲載されています。

・ Saori TAMADA (玉田 沙織), Formation of a Commentary in Nineteenth Century Japan: Motoori Scholar Nakayama Umashi's Approach to *Gosen Wakashū*

■ 『HERSETEC Vol. 4 No. 1, 2010』 正誤表

HERSETEC Vol. 4 No. 1, 2010 に以下の誤りがありました。内容を訂正し深くお詫び申し上げます。

177 ページ, Contributors

Claire FAUVERGUE

(誤) Lecturer

(正) GCOE Associate Professor of French Literature

■ 第 36 回オープンレクチャーの要約

2011年4月13日(水) 18:00～ 名古屋国際センタービル 15階 グローバル
COE オフィスにて

講演者：宮地 朝子 准教授 (名古屋大学大学院文学研究科・日本語学)

題目： 山田孝雄『日本文法論』のテキスト布置

『日本文法論』(1908年)は、山田孝雄(1875-1958)の最初にして最大の著作である。従来、山田文法は、伝統的にをば学から英・独文典、当時最先端の西欧哲学・論理学・心理学までを参照し、日本語の現象面に照らして独自に打ち立てられた初の学理的文法論として最大限の評価を得ている一方、その評価故か学説の形成過程については必ずしも明らかではない。そこで、山田文法として把握される山田の文法関連著作群について、『日本文法論』を主テキストとしその布置構造を描いてみる。主テキストに先駆けて一部が刊行された1902年『日本文法論上巻』は前テキスト、1922年『日本文法講義』『日本口語法講義』1936年『日本文法学概論』は派生テキストととらえ直すことができる。さらに自明の現象面ながら、従前の評価によって見過ごしがちな各々のテキストのコンテキスト、影響関係にある間テキスト、批判論文等のメタテキスト、判型等のパラテキストといった関係性の明示的把握が可能になる。このような整理は学説の形成を考察する際に示唆的である。例えば講者は、従来「校正程度」の改訂とされる『上巻』と主テキスト『文法論』の間に大きな学説形成上の展開を見る。特に山田文法の根幹をなす句論・喚体句の設定に注目し、この点にヴント民族心理学の影響を見いだす。布置構造による整理はこの推定を強く裏打ちするとともに、『上巻』『文法論』の自筆原稿の存在の確認や、就中、明治40年12月付けの追白「句論に於いて重要なる変更をなしたり」との言を得ることにもつながった。近代の学知形成に大きく貢献した山田の学究とその継承については、大きな学説史的研究の余地がある。布置構造の把握によって進捗する可能性が大である。

■ gCOE 研究員ブリーフィング要約

第31回ブリーフィング(2011年4月13日)

小林 智 「東京大学法学部卒業生の判決文に見る事実認定」

明治10年代、東京大学法学部では、英米法の教授が行われていたことが知られている。本発表では、同校卒業生が原告・被告双方の代理人として登場する判決文のうち、裁判官は近代的法学教育を受けていない者であるもの、裁判官も

同校卒業生であるものを取りあげ、そこに表れる事実認定のあり方の相違について比較・検討した。

そこでは、代言人が互いに、主要事実の存否の証明へ向けて、事案に関するストーリー、間接事実および証拠を組織・配置しているのに対し、旧世代の裁判官が、その議論の構造を十分に理解せず、代言人の主張とは遊離した独自の観点に基づき事実認定を行っている様子が視える。一方、同校出身の裁判官は、代言人の主張に即して、ありうべきストーリーと争いのない間接事実を見出し、それら相互の論理的首尾一貫性の有無を検討することで、主要事実の存否を認定していることがわかる。それは、現在の裁判官が自認する認定手法とも合致している。

■ gCOE スタッフ海外出張報告

重見 晋也（技術統括責任者・gCOE 事業推進担当者・電子テキスト）

研究担当サブリーダーである松澤和宏教授と技術担当責任者である私重見准教授が3月9日より3月13日まで、エクサン＝プロヴァンス（フランス）のエクスマルセイユ第1大学（プロヴァンス大学）で開催された国際研究集会「Enseigner la littérature a l'universite aujourd'hui」（「今日大学で文学を教えるとは」）に招聘され、松澤教授が"Sur la Culture du commentaire et la culture rhetorique"と題して、重見が"La Litterature et les matieres de ses supports — Paratexte du Web —"と題する研究発表を行った。この度の国際研究集会は、文学研究科グローバルCOEのイニシアティブにより、プロヴァンス大学と名古屋大学大学院文学研究科との間に学術交流協定が締結されたことを機に、プロヴァンス大学の呼びかけによって、同大学と交流のあるヴァランシエンヌ大学（フランス）、アントウェルペン＝ナイメーヘン大学（ベルギー）、ザンクト・ガレン大学（スイス）、モントリオール大学（カナダ）、シカゴ大学（アメリカ合衆国）などからも参加者を募って開催された。

大学における文学教育の実例報告などが並ぶ中、松澤教授は、ミシェル・シャルルのコメントの文化とレトリックの文化の対比を議論の出発点として、前者を表現や解釈、後者を生成やエクリチュールとしてとらえて対立させるような考え方は、文学教育において非生産的であって、両者を相互補完的に対話させることが重要であるとの主張が出された。また重見は、テキスト布置解釈学の観点から特にパラテキストを取り上げ、文学教育における教材としてのパラテキストの価値はますます重要さを増しているが、ハイパーテキストなどの新

たな支持素材を用いた言語表現が生まれつつある現代において、より一層の研究教育が望まれることを主張した。

両者の発表後は、発表内容に関して参加者全員から活発な質疑が出され、GCOE の研究内容に対する国際的な関心の高さを改めて確認することができた点で、非常に意義深い出張であったと考えている。

■ gCOE 研究員の紹介

2011 年 4 月 1 日より、グローバル COE 研究員の new メンバーとして、深津周太さん（日本語学）が加わりました。

深津さんのプロフィールや研究内容については、グローバル COE の Web ページで紹介される予定です。

次回のメール版 NewsLetter の発行は 2011 年 5 月下旬 を予定しています。

.....
GCOE 「テキスト布置の解釈学的研究と教育」
Hermeneutic Study and Education of Textual Configuration
<http://www.gcoe.lit.nagoya-u.ac.jp/>

NewsLetter No.43

発行：GCOE 編集部

編集担当：平野克典

Copyright(C) 2011 NAGOYA UNIVERSITY, GRADUATE SCHOOL OF LETTERS

.....